

No. 71

1985.

8. 30

岐阜の博物館

編集兼発行

▽501-32 関市小屋名
(百年公園内)
岐阜県博物館内
岐阜県博物館協会
TEL (05752) 8-3111 (代)
振替 名古屋 6 37909



岐博協 会員研修会 始動!

第1回の岐博協学芸職員研修会が、去る6月29～30日に、内藤記念くすり博物館で開催されました。100館を超える県内の博物館及びその類似施設等の職員や、個人会員等あらゆる関係者に開かれた個人的な研修の場とすることを確認し、名称を「岐阜県博物館協会会員研修会」とすることになりました。「もの」があることで共通する種々雑多・大小様々な会員各館園、その実務的な学芸活動上の諸問題について、実践を交流し、情報を分かちあい、仲間意識を高め親睦を深めることをめざしていきます。ひとりでも多くの方々の参加が望まれます。

今後の研修会の日程・内容は次のように決められました。詳細な開催案内は、その都度行なわれます。

◎第2回 12月上旬 会場：岐阜県博物館

◎内容：展示ラベルの自作，解説パネルの文字・図表等の書き方，自作スライドのタイトルや図表の撮影法など，学芸活動にかかわる諸自作の技術や問

題点について、(専門家を講師に予定しています。)

◎第3回 2月上旬 会場未定

◎内容：博物館諸刊行物(ポスター・チラシ・見学の手引き・博物館ノート・解説書・資料集等)の企画・実務及び手づくり教材類の技法や実務について、自主的な研修会の運営をめざして、この事業推進にかかわる運営委員会は、下記のように決定されました。

運営委員長 小野木三郎(岐阜県博物館)

運営委員 青木允夫(内藤記念くすり博物館)

小山みか子(同上)

齋藤基生(豊蔵資料館)

岩田幸久(川島町ふるさと史料館)

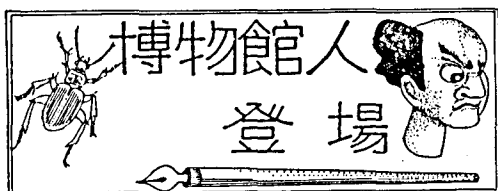
増田登美雄(同上)

水本 甫(飛騨民俗村)

奥村好次(瑞浪化石博物館)

今井雅己(岐阜県博物館)

安藤志郎(同上)



岩村城創築800年祭で町をあげて企画・催物がくり広げられている岩村町。この活動の中心が、岩村町郷土館です。全国で4番目、県下では初めて文化庁の補助を得て、昭和47年に開館したこの郷土館の生みの親ともいえる樹神弘氏（元教育課長）を訪ねました。

「郷土館が今日の私を育ててくれました」と語られる氏から、生みの苦しみ、エピソード、そして、博物館・郷土館の望ましい活動について伺いました。

「昭和40年頃より、歴史資料館・郷土館がほしいとの町民の声があがりましたが、予算は全くありませんでした。町民の署名を集める一方文化庁からの補助金制度があることを知り、さっそく名のりをあげました。昭和46年のことです。国や県の補助だけでなく、町民のなかで文化財に関心のある方を募って郷土館後援会をつくり、最終的には600万円程の寄附も集めました。この後援会は、経済的な援助だけでなく、人的な勤労奉仕もして、現在も盛んに活動しています。私は、行政的な側面から、まず郷土館づくりにかかわったのです」

資料を集め、建物をつくり、いよいよ開館へむけて展示準備をはじめた矢先、学芸活動の中心的役割を果たしてこられた郷土史家・樋田氏の急逝により、事態は大きく変化しました。

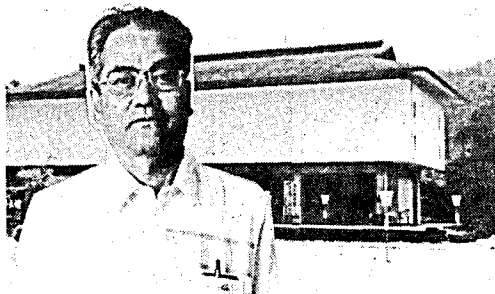
「47年7月の開館に間にあわせるため、3ヶ月、館に泊り込み、展示解説の準備にあたりました。最後の数日は徹夜です。ものを並べただけでは、普通の人にはわかりません。ものの背景となる解説が必要です。この郷土館に特色があるとすれば、詳しく丁寧な展示解説です」

3ヶ月間の背水の陣ともいべき頑張りにより郷土史家・樹神氏が誕生しました。実物にふれ、研究し、解説するという実践を重ねられて

岩村町郷土館

こだま ひろし
樹神 弘氏

ものを生かす 実践の人



真の博物館人となられたのです。

岩村町公民館講座「郷土史を学ぶ会」を、主催指導、54年4月より毎月1回、才3金曜日の夜には、連絡はしなくとも45名の会員が集まります。また、年2回のバスの旅は、この会の楽しみの1つです。

広報『岩村』＝歴史シリーズ＝への寄稿は、42回を数え、恵南農業協同組合が毎月発行する『けいなん』＝ふるさとの歴史と史蹟をたずねて＝は、なんと117回にもおよび、なお連載は続きます。

講座・執筆活動のほか、老人大学や婦人会、子供会の歴史学習会の講師や解説等を精力的に行われる背景には、郷土の歴史を1人でも多くの人に理解してほしいとの願いが込められています。郷土の歴史への理解が、文化財保護の考えを広め、文化財行政への大きな力となるという信念に裏打ちされているのです。

県下には、続々と資料館・郷土館が誕生しています。その活動のあり方、とるべき道を、樹神氏は、実践をふまえお教え下さったと感じました。博物館にとって大切なのは、ものであると同時に、ものを生かす人であるのだと。

「住民の理解を得るための活動が大切です。底辺を広げ、地道な努力を続けて、1人でも多くの人に理解し、わかってもらえるようにするのです。縁の下の力持ちに徹することですヨ」

暑い夏の日、心を洗われるひと時でした。(M.I)

IBM5550を使用した資料管理

内藤記念くすり博物館では、収蔵資料・図書資料を、パソコンを利用して整理しています。実際に使用しながら、参加者が自分の目で、手で確かめ、操作を体験し、その便利さ、今後の博物館相互及び一般とのオンライン化による情報サービスの方向について研修しました。

IBM 5550は、16ビット機で、256キロバイトのメモリーを備えている。専門的な工学知識を抜きにしても、文字は非常に見やすく、ここで使用しているデータベースは、項目をふやしたり内容変更もでき、40項目ほどは可能とのこと。青木館長自身も入力作業をしておられるが、ローマ字でもヒラガナでも、自分の得意なキー作業でよい点にまず驚かされる。図書資料約25,000冊中1,600冊まで入力済みとか。ちなみに、1日に200冊程度の入力作業量とのこと。青木館長も小山学芸員も、パソコン操作は初めてであるが、ソフトさえ備えれば目録入力などすぐできるとのこと。「漢方薬に関する図書に、どんなものがありますか？」との問い合わせに、今では指示すれば、それだけの目録を印刷リストとしてとり出せて、しごく便利とのことでした。

下の資料は、薬看板の目録の一部分事例ですが、外部からのレファレンスや必要に応じて、必要な項目だけのリストに作り変え、プリントできるのです。たとえば、岐阜県に関するもの

は？ 同一寄贈者の看板は？ 江戸時代の看板は？ 購入した看板は？と、指示通りのリストが作れます。収蔵植物切手についても、科別のリストにしたり、植物名のアイウエオ順に組み変えたり、従来のカード式のことを思うと、目を見張るばかりの資料管理での便利さです。

そして、最大の利点は、収蔵資料が入力整理さえされておれば、資料所在の問い合わせに対して、誰もがすぐにリストを取りだせ返答ができることです。学芸員の記憶に頼ることもなく、目録カードを一枚一枚調べて組み変える必要もなく、担当者不在でも可能なことです。図書資料管理、検索についても全く同じことができます。館蔵資料は眠らせるためのものでなく、活用されるべきものである以上、館員のだれもが、操作を身につけておれば、必要な情報が、目的に応じて引き出せるのです。情報化時代の中で、最も必要と思える博物館の世界が、現在一番コンピューターの導入が立遅れていることを痛感したのでした。博物館相互でオンライン化が進めば、資料の借用・特別展の企画等、あらゆる面で、「もの」を生かして使う面での、飛躍が期待できるはずで。

進んだところでは、県内の博物館施設が、収蔵植物標本をコンピューター処理し、種毎の県内植物分布図をとり出せるようにしていると

大分	小分類	資料名	製造元	時代	冊数	登録号	入手先	収蔵	場所
板	板	44=76	東京・天	明治	108	E05169	購入	1971	4t
板	板	48=92	東京・天	明治	108	E05169	購入	1971	4t
板	板	85=48	東京・天	明治	108	E05169	購入	1971	4t
板	板	39=52	東京・天	明治	108	E05169	購入	1971	4t
板	板	69=25	東京・天	明治	108	E05169	購入	1971	4t
板	板	97=35	東京・天	明治	108	E05169	購入	1971	4t
板	板	70=24	東京・天	明治	108	E05169	購入	1971	4t
板	板	60=26	東京・天	明治	108	E05169	購入	1971	4t
板	板	38=105	東京・天	明治	108	E05169	購入	1971	4t
板	板	52=38	東京・天	明治	108	E05169	購入	1971	4t
板	板	88=25	東京・天	明治	108	E05169	購入	1971	4t
板	板	91=30	東京・天	明治	108	E05169	購入	1971	4t
板	板	137=18	東京・天	明治	108	E05169	購入	1971	4t
板	板	110=120	東京・天	明治	108	E05169	購入	1971	4t
板	板	89=26	東京・天	明治	108	E05169	購入	1971	4t
板	板	67=20	東京・天	明治	108	E05169	購入	1971	4t
板	板	45=91	東京・天	明治	108	E05169	購入	1971	4t
板	板	22=71	東京・天	明治	108	E05169	購入	1971	4t
板	板	108=110	東京・天	明治	108	E05169	購入	1971	4t
板	板	39=24	東京・天	明治	108	E05169	購入	1971	4t
板	板	40=151	東京・天	明治	108	E05169	購入	1971	4t
板	板	137=18	東京・天	明治	108	E05169	購入	1971	4t
板	板	108	東京・天	明治	108	E05169	購入	1971	4t

会員自身の自覚こそ出発点

(財)豊蔵資料館学芸員 齋藤 基 生

私の所属する(財)豊蔵資料館は、今年度から岐博協に新加入しました。会員名簿からみて研修会は盛会になるであろうと、新参者は期待と不安相半ばした気持ちで参加しました。ところがいざ蓋をあけてみると、なんと参加者は岐博協の世話人、会場関係者を含めわずかに10人とわかり、愕然としました。まさか100余の会員すべてが集まるとは思いませんでした。それにしてもこの少なさには我目を疑いました。研修会そのものについては別に報告があるのでしょうから、今回参加して感じたまを以下2点ほど述べたいと思います。

まずはじめに研修参加者の少なさに関してひとくさり。博物館とは何かという問いに対し、博物館法に依れば云々、社会教育の立場からあれこれ、調査研究機関としてどうこう等々、用意された答えを提出するのは簡単です。しかし理屈はどうあれ、しょせんお客さんが足を運んで見に来てくれなければ、いくら大義名分を振りかざしたところで何の意味もありません。我々の仕事の出来・不出来を測る目安は、いかに金をかけた施設を作ろうと、いかに中身の濃い展示をしようと、いかに優秀なスタッフを揃えようと、結局のところ入館者数の多寡でしか判断されません。お客さんは法律や建前を見に来るのではありません。必要な事はそこに面白い物、面白い事があるか否かだけです。デパートでの各種催し物や輸入博での興奮ぶりを見ればわかるはずです。今回の研修参加者の少なさは、その気にさせられなかった会員がいかに多かったかを示しています。研修会という言葉そのものに魅力がないとは思いませんでしたが、また、官民を問わずどの館園も職員数が少なく、研修会に参加することで貴重な人材と貴重な時間を割きたくない、そして参加してもそれだけの成果が得られるかわからない、という理由がある

かもしれません。これは普段忙しい・ヒマがないと言って館園へ足を運ばない一般の人々の言い訳と、本質的に何ら変りはありません。自分自身はいろんな物事に興味・感動を覚えないのに、他人にはそれを求める人がいるとすれば、あまりに虫のいい話です。面白いか面白くないかではなく、面白くするか面白くしないかです。食わず嫌いで好奇心のない博物館人は考えられません。次回以降の研修会が発展するか否かはひとえに我々会員自身の自覚にかかっています。

ふたつめに、館園の仕事は誰がするかについてもひとくさり。今回くすり博物館と川島町民会館を見て、仕事は職員1人1人の個性によって成し遂げられると感じました。我々は皆組織の大小にかかわらず、その一部として没个性的に組織及びそのトップの指揮のもと仕事をしています。しかし組織を構成しているのは個であり、トップの座につくのも個です。そしてこれらの個はそれぞれ、より正しく、より公平な、より一般的と思われる判断によって動いています。ところがその個たるや決して無色透明ではあり得ず、それぞれの経験に基づく人生観に裏打ちされています。組織とはこれら多様な個が集合して成り立っています。その結果組織、つまり各個がしっかりしていれば、例え有用でないトップが来ようと、組織は善しにつけ悪しにつけビクともしません。逆にいくら強い心臓を移植しても、組織が動脈硬化を起していれば血は順調に流れません。あえて具体例はあげません。当事者はともかく、一般の人々はこれらの交代で劇的な変化が起きたとは思っていないはず。そして館園へ足を運ぶであろうフツウの人々はコップ中の戦争に伴う個の苦勞は意に介せず、そこが面白いか否か冷酷な判定を下すのみです。その厳しさに対し、我々は充分心しかかる必要があるのです。

同居で良かった町立史料館

川島町ふるさと史料館 岩田 幸久

1. ふるさと史料館は他の2施設と同居

複合施設「川島町民会館」は、昭和55～57年度事業として建設され、昭和58年4月にオープンしました。総工費8億2千5百万円、延床面積3,196㎡、鉄筋コンクリート造り5階建てであり、この中には老人福祉センターに当たる「生きがいセンター」（1.2.5階）、図書館に当たる「ほんの家」（3階）、そして歴史民俗資料館に当たる「ふるさと史料館」（4階）の3施設が同居しています。

この複合施設の施設面での特徴は、複合でありながら入口が別々でないということです。通常この種の施設は中央官庁からそれぞれ別個の補助金をもらうため、各省庁の設置基準に合わせて各部屋を建設し、入口も当然別々に設けられ、実際運営の段となるとこの点が大変支障になると聞いています。そこで、入口をぜひ共通にしたいと強く要望し、全国的にも稀な例として許可されました。おかげで現在は複合施設であるというメリットを生かし、総合的に企画事業などを計画することができ、開館当初職員が予想した以上に多くの住民の皆さんに活用される施設とすることができました。

2. 町民会館を年間1人7.5回平均利用

町民会館は昭和59年度61,447人の利用がありました。これは約8,200人の全住民が、年間7.5回利用したことになります。取り分けほ

ん家の利用者は多く年間32,000人を越える入館者があり、図書の貸出しも47,000冊余りとなり、県下は元より、全国的にも住民1人当りの貸出率が非常に高い図書館となりました。昭和59年度の町民会館利用者の内訳は次の通りです。

■ ふるさと史料館	10,690人
■ ほんの家	32,185人
■ 生きがいセンター	18,572人

3. ふるさと史料館『ついでの利用』

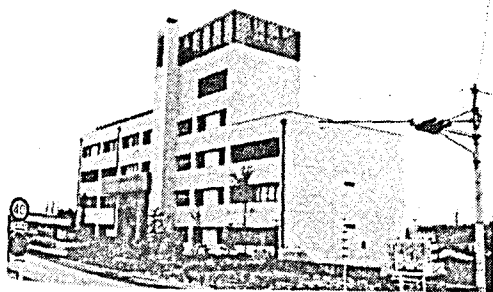
町民会館内での利用者の流れを見ていると、他施設へ来たついでにふるさと史料館に立ち寄るという利用スタイルが多いようです。

すなわち、3階ほんの家へ本を借りに来て、4階ふるさと史料館に立ち寄る。また、1.2階の生きがいセンターで開かれる生きがい学園の学級や、5階の展望浴場に入浴した後に立ち寄るという『ついでの利用』です。

住民にとって民俗資料の展示はそれほど魅力的ではなく、主目的としてふるさと史料館へ来館する人はそれほど多くありません。しかし、私はたとえ『ついでの利用』の形態であっても良いのではないかと考えています。『ついでの利用』こそ、複合施設であることの最大のメリットではないでしょうか。

ほんの家は主に活字資料の提供によって生涯学習にサービスする施設であり、ふるさと史料

(複合施設 町民会館全景)



(第2展示室での企画展)





(5階生きがいセンターの展望浴場)



(高齢者、民謡学級)

館は主に現物資料の展示によって生涯学習にサービスする施設であるという考え方に立てば、特にこの2種類の機能を持った社会教育施設は、当然複合でなければならぬと考えています。

4. 第2展示室は町民ギャラリー

ふるさと史料館の展示コーナーには、第1に125㎡の常設展示コーナーがあり、約2千万円かけて展示工事を行いました。第2には123㎡の収蔵室があり、この部屋も常時オープンし、説明板を付けた資料約1,200点ほどを収蔵展示しています。第3には52㎡の第二展示室があり、この部屋で企画展を実施するようにしています。常設展示室と収蔵室は展示がほぼ個定しています。第二展示室はまったくのオープンスペースで、この部屋をどう活用するかが史料館経営成否のカギです。

現在の考え方は、本町には町民ギャラリー的な展示スペースが、町民会館内の2階ロビー(83㎡)と4階第二展示室しかないという状況から、ふるさと史料館の展示室という狭い枠に取られず、出来る限り幅広い内容の企画展を実施しようと考えています。また、そうすることによってなかなか取り付きにくい常設展や収蔵室にも出来る限り数多く足を向けていただこうと考えています。

企画展実施に当たっては、県立博物館、他の関係施設、各種団体や個人と連携し、時には全面的に資料提供を依頼し、協力していただくことにより少ない職員数をカバーしています。

そして、町民会館では第2展示室かロビーでたとえばさやかな内容でもいつも何かの企画展

が実施されている状態にしようと思っています。そうする事によって「今日は暇があるから町民会館へ行ってみようか」とか「本を借りたついでにちょっとふるさと史料館へ寄ってみようか」というふうに、気軽にフラリと立ち寄ってもらえるような史料館になるのではと考えています。昭和59年度の企画展等の開催状況は次の通りです。

〈第2展示室での企画展〉

①第1回収蔵品展「衣(ころも)展」

4月7日～5月6日・見学者推計760人

②ふるさとのバード展

5月10日～6月10日・見学者推計900人
協力・木曾川自然友の会

③身近に見られる葉草展

6月20日～7月20日・見学者推計1,400人
協力・町食生活改善あゆみの会、エーザイクすり博物館、個人2名

④第2回収蔵品展「食・住展」

8月1日～9月9日・見学者推計1,700人

⑤小学生夏休み作品展

9月16日～9月30日・見学者推計900人
協力・川島小学校

⑥北米とぎふの植物展

10月11日～11月11日・見学者推計800人
協力・岐阜県博物館

⑦木曾川展

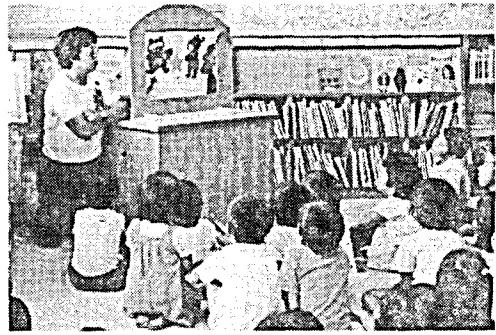
11月24日～2月28日・見学者推計2,400人
協力・八百津町郷土館、岐阜県博物館

〈ふるさと教室〉

①バードウォッチングのつどい



(ほんの家、貸出カウンター)



(ほんの家、毎週土曜のおはなし会)

5月13日(日)・協力・木曾川自然友の会

②植物教室

11月11日(日)・協力・県博物館学芸員

③石うす教室 11月24日

④たこつくり教室

12月27日(日)・協力・川島小学校教諭

⑤カモの観察会

1月27日(日)・協力・木曾川自然友の会

〈ロビーでの企画展〉 主催・ほんの家

①いわさきちひろ複製画展 9/18~7/8

②東南アジアの「蝶」展 9/11~10/11

③高島純・絵本原画展 1/13~2/10

④く日本画〉水清会展 2/14~2/28

⑤三島恵・切り絵展 3/10~4/7

5. 複合施設では職員の専門性が一番の問題

複合施設で一番問題になるのは、職員の職務配分と専門性です。町民会館の職員は現在8名で、うち2名は嘱託となっています。嘱託職員以外は町長と教育長の両方から辞令をもらい、館長以下全員が3施設兼務で職務に当たっています。嘱託職員2名のうち1名はふるさと史料館専任、あと1名はホームヘルパーという構成

(ふるさと教室、石うすてきな粉づくり)



です。

兼任職員であるからといって住民側から見れば、それぞれの職務で専門職員でなければなりませんはずです。兼任だから分かりません、できませんは通用しないはずです。しかし、職員は一般行政職の人間ですから、移動もありますし、また、専門職として採用されたわけでもありません。こういう状況の中でどう専門性を高め、より質の高い生涯学習サービスを行っていくかが大きな問題です。

現在の職員で社会教育関係の資格取得状況は、社会教育主事2名、司書1名、司書補1名となっています。しかし、学芸員の資格を持った職員は残念ながらいません。それだけに、協会での会員研修会には、期待するところが大きいわけです。県下各地には、市町村立の歴史民俗資料館が続々と建設されています。「もの」の保管庫に終始しないためにも、「もの」を生かして活用する専門性を高めるためにも、博物館学の理念や実務について、自己研修する必要があります。気軽にお訪ねくださり、ご教示・情報交換を賜りたいものです。

(ふるさと教室、バード・ウォッチング)



特別展 「植物にみる先人の知恵」
に どうぞ

内藤記念くすり博物館(羽島郡川島町)では、植物にまつわる“生活の知恵”に焦点をあて、標記の特別展を、7月27日から10月31日までの長期にわたり開催中です。トウキ・サフラン・クコ・ビワなど15種の薬用酒をはじめ、防腐剤の役目をはたしたササの笹団子・笹飴、刺身に青ジソなど食物に添える植物、植物から作る医薬品、染色に用いられた植物、歳時記の中の植物、民間薬、薬用植物図譜、薬用植物切手、植物を使ったおもちゃなどが主な展示内容です。

入館は無料ですので、ご家族連れでぜひお出かけください。

サイエンスガイド No.4
“郷土の自然観察” 刊行

博物館の教育普及活動の一面として、各種出版物の刊行があります。岐阜市少年科学モニター発行のサイエンスガイドも4冊目となりました。内容は、●春の女神ギフチョウ(カラー) ●アリの生活 ●光に集まる虫(カラー) ●カタツムリの生活(カラー) ●水の中の小さな生物 ●外国から来た植物(カラー) ●夏から秋にかけての雑草で、B5判24ページ、郷土岐阜市の自然観察の手引書として格好の出版物です。

マルチスライド「ふるさとの自然・
山の四季」新展示

岐阜市少年科学センター2階展示室のマルチスライドの内容が新しくなりました。白山を中心舞台とし、美しい景色、高山植物や野鳥、ほ乳動物が紹介され、約15分間の上映中には、クイズコーナーも登場します。音響効果のすばらしさとともに、次々と画面に登場する山や花や動物たち、まるで登山者になった雰囲気での四季が味わえます。ぜひ鑑賞くださって、第5作目製作へのご意見等をお聞かせください。博物館における映像展示とは?を考えるには、絶好の教材ともいえます。

★「岐阜県の博物館」遅刊のおわび

岐阜県博物館協会編集の要覧「岐阜県の博物館」は、6月下旬に書店に並ぶ予定で、編集・印刷が進められてきました。会員各位には、その由図書引換券(葉書)が、すでに送付されています。発行所の都合により発刊が大幅に遅れていますので、おわび致します。8月末には、発刊されそれ以後書店に出荷される予定です。大変ご迷惑をおかけしていますが、引換え券使用は9月に入ってからにしてくださいようお願いいたします。

★文献紹介 宮本馨太郎著 民俗博物館論考
慶友社刊 5,000円

大学に博物館学講座を一番早く設けられたのが立教大学の宮本馨太郎氏であり、その講師を引受けられたのが、岐阜県出身の棚橋源太郎氏(博物館の父とたたえられ、ICOMの名誉会員)であった。日博協「棚橋賞」は、宮本氏らの提唱で設けられたものである。その博物館界での業績が多であった宮本氏には、博物館学に関する出版物が一冊もなかった。今回7回忌を記念して、一冊の本に纏められたもので、博物館学講義ノート、博物館学講義要綱、博物館法施行規則の制定から～等、日本の博物館界の歩みはもとより、民俗博物館のこと、棚橋源太郎氏や渋沢敬三氏のことなどを知る貴重な文献といえます。博物館必備図書として紹介します。

編集後記

◎川島町のふるさと史料館を含めた複合施設のあり方は、今全国的にも注目されています。利用する町民の側に立てば、とても幸せなことといえないでしょうか。(S・O)
◎博物館人登場を始めました。県内各地で、地道に「もの」を通しての研究・教育の実践に情熱を傾けておられる方々を、ぜひ編集委員会までお知らせください。(M・I)
◎機関紙に新鮮味を……と考えています。新しい企画・アイディアをお寄せください。(S・A)